

平成 25 年度第 4 回第 4 期川崎市地域福祉計画協議会 会議録

会議の概要

| | |
|-------|---|
| 開催日時 | 平成 26 年 3 月 27 日（月）午前 10 時から 11 時 15 分まで |
| 開催場所 | 川崎市役所第 4 庁舎第 5 会議室 |
| 出席者 | 出席委員 1 2 名 |
| | 事務局 4 名 他委託事業者 |
| | 欠席委員 5 名 |
| 次第 | 1 地域福祉部長挨拶 2 協議会委員長挨拶 3 議事 （1）第 4 期川崎市地域福祉計画について ・第 3 回協議会以降の経過 ・第 4 期計画について ・区民説明会実施状況 ・パブリックコメント実施状況 ・今後のスケジュール （2）各委員から （3）その他 |
| 傍聴人の数 | 2 名 |
| 配付資料 | 資料 第 4 期川崎市地域福祉計画書 資料 第 4 期川崎市地域福祉計画 概要版（市＋各区） 資料 区民説明会実施状況 資料 パブリックコメント実施状況 資料 第 4 期川崎市地域福祉計画協議会設置要綱 資料 スケジュール表 |

議事要旨

| 発言者 | 発言要旨 |
|--------|---|
| 地域福祉部長 | <p>本日は年度末の忙しい中、第4回地域福祉計画協議会にご出席いただき、誠にありがたく思う。また、委員の皆様には、日頃から地域福祉の推進に御尽力いただき、誠にありがたく思う。これまで委員の皆様にご意見をいただき、ご議論いただいた第4期川崎市地域福祉計画（案）は1月から2月にかけてのパブリックコメント、各区での区民説明会を経て、計画策定の最終段階にきている。前回の協議会でのご意見を反映し修正した点、また庁内各部署で協議調整した結果の説明、パブリックコメント、区民説明会で寄せられたご意見・ご要望の紹介と対応について報告したい。</p> <p>最後に、1年間地域福祉計画策定作業にご協力いただき感謝申し上げます。</p> |
| 委員長 | <p>計画ができたということで、説明いただけるということである。よろしくお願ひしたい。</p> |
| 事務局 | <p>(資料の確認)</p> <p>本日は委員のご紹介で2名の傍聴者がいる。</p> <p>これからの進行は委員長にお願いする。</p> |
| 委員長 | <p>まず、議事（1）第4期川崎市地域福祉計画について事務局から説明をお願いしたい。</p> |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回協議会以降の経過 新市長になり、「最幸のまち かわさき」を表紙にも入れた。 資料編を追加しているが、委員のご意見を反映し、本計画と連携する主な個別計画について説明を掲載、関連する主な相談機関についても掲載した。 ・第4期計画について 区民説明会で使用したパワーポイント資料に基づき説明。 ・区民説明会実施状況 ・パブリックコメント実施状況 パブリックコメントとして37通、延べ50件の意見をいただいた。 ・今後のスケジュール 計画書が納品され次第、委員には郵送する。 |
| 委員長 | <p>事務局からの説明についてご意見等あるか。</p> |
| 副委員長 | <p>第3期は半年ごとに進捗状況を評価・管理しているということで、その中で第4期の計画を策定しているが、第3期3年間を通して総括、評価する場はあるのか。</p> |
| 事務局 | <p>明日、推進検討会議を開催し、今年度の総括と3年間の振り返りを行う予定である。</p> |
| 委員長 | <p>最後の資料にあるスケジュールの推進検討会議の第2回が3月28日となっているが、このことである。</p> |
| 副委員長 | <p>単年度だけではなく3年間の総括ということであるか。</p> |
| 事務局 | <p>これまでは半年ごとに評価しているが、最後にもう一度ご意見をいただく。</p> |

| | |
|------|--|
| 委員 | <p>図が入ってわかりやすい冊子ができて良かったと思うが、これをテキストのように、民生委員の説明会などでの資料に使ったりして、少しでも多く市民の目に触れるようにしないと地域福祉計画は知られないのではないか。</p> <p>また、資料編の個別計画の説明は、8ページの「計画の位置づけ」の次に、位置づけの図の順に入っていると対応してわかりやすかったと思う。今後はこれをテキストとしていかに使ってもらうかにかかってくると思う。</p> |
| 事務局 | そのようにして広めていきたい。 |
| 委員長 | 概要版を活用していただいたほうがいいか。 |
| 委員 | もう少し説明があったほうがいいので、概要版だけだと物足りないので、最初のところまでの薄い冊子があればよい。後は見せ方である。 |
| 委員長 | ほかになければ、次に議事「(2) 各委員から」ということであるが、事務局からどのように進めるか説明をお願いします。 |
| 事務局 | 本日の協議会で委員の任期満了ということで、第4期の推進にあたり委員に感想を頂戴したい。 |
| 副委員長 | 医療従事者の立場から、これから福祉と介護と医療と、地域包括の中で連動していける形を作っていきたいと思う。 |
| 委員 | 初めて参加させていただき、勉強になった。これから講演会などがあれば話をしていきたい。 |
| 委員 | 民生委員児童委員の立場から、昨年改選があり、3分の1が変わった。概要版を見ても、地域福祉の連携の中には必ず民生委員児童委員が入っている。新しい民生委員も驚くと思うが、この概要版をいただき、民生委員に理解を得たいと思う。 |
| 委員 | 市の施策を市民によく理解していただくことは非常に大事なことであり、福祉に限らず様々な領域で計画があるが、いかに周知するかということと、計画を作ってそれを実現していくことが大事であるので、引き続きご協力をお願いしたい。 |
| 委員 | 昨年12月で異動があり、市民子ども局市民生活部長として前任者から引き継いだ。主にNPOの支援、町内会・自治会の支援をしているが、NPOの活動が増えている一方で、町内会・自治会の加入者が減っている。町内会・自治会が地域でしっかり活動されることが支えになるので、引き続き力を入れて支援をしていきたい。 |
| 委員 | 麻生福祉事務所長の立場からいうと、麻生区は川崎区に次いで高齢化率が高い。一方で豊かな自然があるという特色を踏まえて、市の方針や区の計画に則り、施策を進めていきたいと思う。 |
| 委員 | かわさき市民活動センターは子ども文化センター、わくわくプラザの指定管理者となっており、現在子ども文化センターが53館、わくわくプラザが101箇所である。これまで地域福祉について深く考えることはなかったが、会議に参加して、今後は市民活動の人はネットワークが強いので、計画を周知していければと思っている。 |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>川崎市身体障害者協会の当事者団体として参加したが、アンケートにもあるように、災害に対する関心が非常に強い。この計画でも災害時要援護者制度があるが、他の計画でも、どう実施されていくかが重要である。災害時の要援護者をどう支援していくか、要援護者にとって共助は無理なので、近所の人たちの「近助」が必要である。町内会・自治会がかなりの割合で関わってくるが、これも向こう三軒両隣である。計画を実のあるものに実施していく方策を考えていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>地域包括ケアシステムは 2025 年までに実現するということだが、それまでに追いつくかどうかと考えている。市民に周知させるには、教育が重要ではないか。意識を持たせることと、ボランティア精神を養うことである。人口動態を見極めながら進めていくことであろうが、あと 40 年経てば 8,800 万人くらいになるので、お互いに支え合う、面倒を見合うというのはなかなかうまくいかないのではないかと思う。昔のように三世代、二世代が一緒に住む方向に向かっていくのではないか。この計画を興味深くみていきたい。</p> |
| 委員 | <p>計画をどのような形で広めるかということで、4月に在宅介護者の総会があるので、1章、2章と、高津区の概要版とで説明しようと思う。まず身の回りのことからお知らせして、今川崎がどんな地域になっているのか、知ってもらいたい。麻生区はまだ若い地域だと思っていたが、2番目に高齢化率が高いということで驚いたが、自分の地域がどんな状況になっているのか理解してもらうことが必要だと思う。委員にも、講演会など、いろんな場で話をさせていただくのがいいと思う。見守りは大変だといいながら、これからはそうしないとやっていけなくなる。私も微力ではあるが頑張っていきたい。</p> |
| 委員 | <p>川崎市地域女性連絡協議会から参加した。戦後まもなくできた団体で、60年以上の歴史がある。私は子育て支援部に属しているが、子育ての電話相談をボランティアとしてやっている。私自身に高齢の父母がいるが、地域包括支援センターに大変御世話になっている。今までそれほど福祉に関わることがなかったが、個々に必要な福祉は違うので、個々の状況に応じた情報を提供することが大切だと思う。今後も施策を充実して欲しい。</p> |
| 委員長 | <p>この計画を委員の皆さんが関わるところで活用していただき、広めていただきたい。高齢化が進む中、この計画にもある地域包括ケアがますます重要になってくるであろう。裏返すと、特別養護老人ホームなどへの入所施設ケアから在宅ケアに切り替える発想であり、地域でどう生活をするか、支援するかというのが基本的な考え方である。国の政策が大きく舵が切られたということであり、地域の体制がどうなるかというのが大きな課題になってくると思う。特別養護老人ホームの入所は要介護3以上となってくると、要介護1・2の人の行き場がますます無くなっていく。そこで必要になるのが小規模多機能居宅介護施設をいかに整備するかということになると思う。高齢者だけでなく障害者も地域生活支援に舵を切っていて、日本は遅れているが、北欧は1900年くらいから入所施設ケア全廃という施策をとっている。地域でどう生活を支えるかと</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>いう根底はこの地域福祉だと思うので、ぜひ市民の理解を広めるには皆さんのご協力が大事であるので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>ほかに何かあるか。</p> |
| 委員 | <p>区の概要版はあるが、区でも計画書があるのか。</p> |
| 事務局 | <p>各区計画は概ね 100 ページ弱で 1,000 冊、概要版が 3,000 部である。</p> |
| 事務局 | <p>計画書の製本ができ次第、お送りする。</p> |
| 委員長 | <p>以上で議事を終了する。</p> |
| | <p>閉会</p> |